



基礎工事

9 月も半ばになり、小長井学園の校舎建築がいつ始まるかなあと思っているところですが、おそらくどのような建築物でも基礎工事、地盤づくりから始まるものと素人考えながら思います。

それは、地震や災害時の安全を担保するだけでなく、日常生活を送るうえで快適な生活を担保するものであるかと思っています。

大きな災害で家屋が倒壊しても基礎の部分は残っているニュース映像を見たことがあります。それほど基礎は強靱に造ってあるのだなあと思いました。

様々なことにも基礎が大切かと思っています。将来的に何かしらの職に就けば、その職の基礎があります。習い事をすればいきなり上級者のしていることはさせられないでしょう。スポーツの世界でも初めは基礎体力づくりということもあります。

そのような基礎をないがしろにして、あんなことをしたいとか、こんなことをできるようになりたいと思って、その高い技術を真似てみても自分のものとして獲得するのは難しいのではないかと思います。

小学校や中学校の義務教育 9 か年で学ぶことは、子どもたちが社会生活を営む上での基礎となることです。子どもたちが生きる未来は、今より変化が激しく、予測困難な社会であると言われています。そのような社会を生き抜くにはやはりしっかりとした基礎が必要であると思っています。